

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 高橋祥子

本論文「『和字正濫抄』の学問史的意義」は、契沖『和字正濫抄』（五巻、元禄八年〈一六九五年〉刊）を、ひとつのテキストとして解析するものである。『和字正濫抄』は、歴史的仮名遣の基礎をつくったものとして国語学史のうえでの位置づけをあたえられている。とくに、古書に典拠をもとめ、仮名遣の規準をしめしたという実証性が高く評価され、仮名遣の書として扱われるのが通説であった。しかし、そうした評価にもかかわらず、この書自体に即して分析することは、いまだ十分なされていない。本論文は、『和字正濫抄』というテキストに対して、あらためて正面から立ち向かい、その正当なテキスト理解と学問史的な位置づけをめざしたものである。

本論文は、序章、第一章「仮名遣の根拠——巻二～巻五の記述から」、第二章「『和字正濫抄』の方法——巻一の位置づけ」、第三章「『和字正濫抄』の学問的基盤」、「おわりに」から成る。その構成にしたがって概括すれば、序章で、研究史批判とともにみずからの立場をしめし、第一章では、巻二～巻五において、古書を根拠として仮名遣を定めたといわれるところを検証し、その問題点を掘り起こす。そして、仮名遣の根拠が古書のみでなく、理論にささえられるものでもあったことを明らかにし、第二章は、その理論としての巻一の検討をおこなう。主として、「五十音図」と「いろは字体」について検討するのであるが、それがどのような基盤から出るものであるかを問うとき、悉曇学を考えねばならないことにいたる。第三章は、基盤としての悉曇学を見、「おわりに」はまとめとなる。

本論文の特色は、『和字正濫抄』そのものを、全体として考察したことにある。従来、巻一をふくめて全体として考察することはなく、仮名遣を典拠にもとづいて実証的に定めたことと評価してきたが、その典拠についても一々に検証したものはなかった。方法的検証もなく、全体理解はなされてこなかったといつてよい。

本論文第一章は、すべての例について典拠を検討し、たとえば、「日本紀」としてあげられる中には傍訓にしかあらわれないものがあったり、その傍訓の仮名遣と見出し語が一致しないものさえあったりすることを明らかにした。さらに、漢字音反切を根拠とするものがあることを取り上げ、これも逐一検討して、その反切が『大広益会玉篇』であることをあきらかにした。そうした徹底的な具体的作業（方法的検証）にたつて、契沖の「実証性」の本質にせまるのである。

すなわち、第二章は、漢字音反切が仮名遣の根拠となるのは、巻一の「五十音図」と結びつけてのことだという、『和字正濫抄』の方法を明確にした。反切の上字が「五十音図」上の行を決める役割をすることになるというやりかたなのであった。そして、そのような

やりかたを可能にする「五十音図」なるものが、日本語の音をあらわしたものではありませんことを明らかにする。最近の釘貫亨の研究でも古代日本語音声の復元をめざす日本語音声学という点で契沖を位置づけるが、「五十音図」は日本語のみならずすべての音、つまり、普遍的な音をあらわしたものと見るべきだというのである。「普遍的な音図」ということは、はやく馬淵和夫の指摘があるが、本論文は、挙例の一家の検討を経たうえで、『和字正濫抄』の方法の根幹としての「五十音図」を析出したのであった。これによって、問題の本質が、具体的に、かつ、クリアに示し出されたということが出来る。その普遍音の「五十音図」に対して、日本語の文字を「いろは字体」として定義するのであったととらえ、この理論の枠組みにたって仮名を書き分けるべきことが導かれたのだと論じる。

そして、第三章は、「五十音図」のもとにあるのは、悉曇学であり、縦五段・横十行の構造を最初につくった、天台僧の悉曇学者明覚の『悉曇要決』の音図の性格をうけついでいることを確認する。本論文は、こうして悉曇学という基盤にまで分け入ることとなった。契沖の学問基盤として、悉曇学のなかに分け入って、明覚の音図とのかかわりを明確にしたのは本論文の重要な成果と評価される。大学院入学後に、サンスクリット語を刻苦して学習した本論文筆者にしてはじめてなされえたこととして特記したい。

以上、序章に述べられたように、『和字正濫抄』の研究史においては巻一を含めた全体を理解し、その意義を考えることが欠けていたが、その批判にたって、この書の正当なテキスト理解を果たしたものとして本論文は高く評価される。

ただ、叙述においてより丁寧な説明が望まれるところがあり、第三章には踏み込みの点でやや物足りなさのこるという指摘もあった。しかし、それらは本論文の価値を損なうものではないというのが審査委員の一致した評価であった。

したがって、審査委員会は全員一致して、博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。